

第1回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定懇談会会議録(概要版)

- 1 日時 平成27年7月6日(月) 午後2時～午後4時
- 2 場所 青梅市福祉センター第1集会室
- 3 出席委員
篠原委員、加藤委員、小澤委員、森田委員、館委員、山本委員、
坂本委員、中島委員、吉澤委員
- 4 議事
 - (1) 委嘱状公布
 - (2) 市長あいさつ
 - (3) 委員自己紹介
 - (4) 正副会長選出
 - (5) 正副会長あいさつ
 - (6) 説明事項
 - ① 人口ビジョンおよびまち・ひと・しごと創生総合戦略について
 - ② アンケートについて
 - ③ 青梅市の現状等について
 - (7) 意見交換
 - (8) その他
 - ① 次回の開催等について
 - ② その他

(配布資料)

- 資料1 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定懇談会設置要綱
- 資料2 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定懇談会委員名簿
- 資料3 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定懇談会の会議の公開等に関する取扱要領
- 資料4 まち・ひと・しごと創生総合戦略策定にかかる基本的考え方
- 資料5 まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」と「総合戦略」の全体像
- 資料6 青梅市人口ビジョンおよび青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の構造
- 資料7 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定スケジュール
- 資料8 若年世代の進学・就職・結婚・出産・子育てに関する意識調査
- 資料9 定住・移住に関する意識・希望調査【転入者向け】
- 資料10 定住・移住に関する意識・希望調査【転出者向け】
- 資料11 青梅市に対するイメージ調査
- 資料12 青梅市人口ビジョンに関する統計データ
- 資料13 青梅市の将来人口推計(案)

発言者	会議のてん末・概要
市長	<p>(開会)</p> <p>(1)委嘱状交付 市長より各委員に委嘱状を交付</p> <p>(2)市長あいさつ 懇談会への参加、感謝申し上げる。平成26年、まち・ひと・しごと創生法が施行され、国でもまち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」および「総合戦略」が策定された。それを受け、地方自治体でも、今年度中に、各地域の実情を反映した長期ビジョン・総合戦略を策定することに努めなければならない。人口減少社会をどう乗り越えるのかという問題に対して、青梅市でも官民が総力を挙げて、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口減少に歯止めをかける必要がある。そして、将来に渡って持続的に活力ある青梅を戦略的に築いていかなければならない。</p> <p>青梅市では国に先駆け、人口減少社会、超高齢化社会の到来を見据えた第6次総合長期計画を策定している。将来に渡る持続的な発展を目指して、この計画に基づいて取組を進めている。ただ、当時の人口推計が甘かったのではないかという指摘もある。今回の国の動きを踏まえ、第6次総合長期計画を基本としつつ、人口ビジョン・総合戦略を策定することで、まちづくりのスピードを加速していきたい。ご協力願いたい。</p> <p>(3)委員自己紹介 各委員より自己紹介</p> <p>(4)正副会長選出 委員より篠原委員が会長に推薦され、全委員から承認 委員より館委員が副会長に推薦され、全委員から承認</p> <p>(5)正副会長あいさつ</p>
事務局	<p>(6)説明事項・(7)意見交換</p> <p>①人口ビジョンおよびまち・ひと・しごと創生総合戦略について 資料4～6を用いて人口ビジョンおよびまち・ひと・しごと創生総合戦略について説明</p>
会長	<p>資料5は国が発行している資料で、資料6・7は青梅市が作成したものか。そうであれば区別しておくべき。</p>

事務局	発行・作成元はそのとおり。以後、区別して準備する。
会長	資料5は国が考えたことなので、すべてやらなければいけないと思わない方がよい。すべての自治体に当てはまる施策ではない。
委員	仕事・働く場がなければ人口は減る。産業の興隆が地方の活性化に結びつく。青梅市はTAMA産業活性化協会(首都圏産業活性化協会)の会員だ。都心から50km圏の多摩・相模原・川越の産業活性化のための団体で、TAMAは多摩ではなく、Tech Advanced Metropolitan Areaの略称である。都心には知が集まっているが、工場も研究所もないことから、都心に対して多摩・相模原・川越の一带はテクノロジーを集積しようという考え方を持っている。
会長	都心とは違う特色が出せるということだろう。
委員	保育園の現場にいと、子どもを預ける時間が長いという印象を持っている。母親が都心で働いているからだろう。青梅市内で安心して働ける場所が必要だと感じている。
委員	国が示している施策では農林水産業の成長産業化が取り上げられている一方、青梅市が作成した資料では商工業は取り上げられているが、農業はない。青梅市は市域の約63%が森林なので、農業を含めた1次産業に力を入れてはどうか。教育に組み込むことも必要である。
事務局	総合戦略を検討していく際に考えたい。
会長	農林水産省が、カゴメ株式会社や味の素株式会社などの出資を得て、農林漁業成長産業化支援機構を設立し、6次化などに取り組む人に融資をしている。各地に50社ほどのサブファンドもできている。林業は1社だったと思うが、進みつつある。日本の農産物は、価格は高いが、安心・安全である点で国際競争力はあるのではないかと。 これは事務局へのお願いだが、人口減少を問題視することに疑問を持っている。先進国でもドイツは約8,000万人、フランスが約6,000万人なので、日本が少ないともいえない。人口が少ないことよりも、人口バランスが問題なのではないか。あと何年経てば人口のバランスがとれるのかを知りたい。その上で、冷静な議論をしていきたい。
事務局	②アンケートについて 事務局より、資料8～11を用いてアンケート調査について説明がなされた。

会長	アンケートの結果はいつ出せるか。
事務局	8月中には結果をとりまとめ、次回の懇談会では提示したい。
委員	イメージ調査はどのように実施するのか。学生に青梅市のことを聞くこともあるが、あまり知られていない。1ターンを促すには知名度が重要になる。イメージ戦略を考える上で必要だとは思いますが、手法について知りたい。
事務局	ネットモニターアンケートを行う。モニターに登録している東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県にお住まいの方400名の回答を得る。
会長	イメージ調査は結果が想定される。おそらく青梅市を聞いたことがあるかという設問には「ときどき耳にする」「聞いたことがない」が多いのだろう。青梅市のイメージは「御岳山」か「青梅マラソン」が選択されると思うが、何を目的とするのか。
委員	そのとおりだと思うが、新宿から青梅まで歩く「かち歩き大会」という活動もある。知らないことを拾い出す方法もあっていいのではないか。
会長	ネットモニターアンケートには画像は表示できるのか。回答は変わらないにしても、青梅のことを知ってもらう機会として活用してはどうか。
事務局	画像は表示できるので、検討したい。
会長	調査に乗じて青梅のPRをするとよい。青梅市に来るようになって色々知った。青梅大祭など非常に魅力のあるコンテンツがあるにもかかわらず、PRが不足しており、もったいないと感じている。 転入・転出の調査対象者が、どちらも過去1年間の転入者・転出者なのはなぜか。
事務局	転出者に関しては、転出後に移動されると住所が分からなくなるので、1年間に絞った。転入者については、新しい方の感覚を知りたいと考えたからだ。
会長	転入して1年の方はまちのことが分からないだろう。対象期間を伸ばした方がよい。
事務局	可能な範囲で検討したい。

会長	<p>転入した方の意見は重要だと思うので、検討されたい。</p>
委員	<p>林業を成木で営んでいるが、子育てのために青梅駅周辺に住んでいる。住民の実感として東部と西部で格差を感じる。地区ごとに結果をまとめると傾向が把握できるのではないか。</p>
事務局	<p>調査ごとに対象者を別々にする。対象の抽出にあたっては地区のバランスをとっている。</p>
委員	<p>東部と西部との人口格差を念頭においてアンケート結果をみる必要がある。青梅市西部に住んでいると、行政区分は青梅市だが、生活は奥多摩と同様だという人も少なくない。青梅駅以西の電車の条件が奥多摩と変わらない。青梅市のむずかしさは、そこにある。青梅市がどんなまちかということ、住民も認識しづらい。羽村や福生はトータルとしての印象がある。小作と沢井とはまったく違う生活区分であり、同じ青梅としてくくって分析することに難しさがある。アンケート結果の分析に当たっては、そのことを頭に入れておくべき。</p>
会長	<p>確かにそのとおりのだ。立川まではアクセスがよいが、青梅線に入ると快速もなくなり距離を遠く感じる。青梅駅よりも西になるとさらにアクセスが悪くなる。</p> <p>青梅とひとくりにするのはよくない。実態を踏まえて分析を行い、整理するなどしてもらいたい。</p>
委員	<p>現状分析をすると、あまりよい結果にはならないだろう。人口推計もある程度正確なものが算出されるので、その結果に対してどのような施策が打てるのかを検討しないとイケない。子育て世代の不安を取り除き、人口流出を止めようとすると、近くに働き口があるということ、安心して預けるところが確保されるといったことがあるだろう。</p> <p>企業誘致においては、なぜ青梅に立地したのかということがあがるが、災害が少ないという土地の特性が認識されて選んでいただけたのかもしれない。そのような土地の特徴を外に向かって発信し、産業を活性化させ、法人市民税を確保しつつ、その資金を総合戦略の施策のために活用するという循環を生み出していくべきだろう。</p> <p>このように地域や産業の活性化はできると思うが、人口のことは難しいように感じている。美しいビジョンを掲げるのは避けた方がよいと考えている。</p>
会長	<p>人口のバランスとともに、市民の立場では、どういう人に今後住んでほしいのかということも議論してよいのではないかと。だれでも引っ越してきてくださいというのではなく、こういう人に住んでもらいたいという施策があってもよい。行政は</p>

	<p>議論しにくいが、民間であれば意見を出せるのではないか。</p> <p>中心市街地活性化も駅ビルを建てたりするが、多くの場合、うまくいかなくなる。人口が減っているのに市全域を対象としていることに無理があるのだ。行政は公平性を欠いてはならないので河辺だけを再生するとは言えないかもしれないが、必要な視点は地域を限定することではないか。佐賀市では、民間主導で空き地を改修し、その周辺の商業を活性化するという取組をしている。小さなエリアで限定的にやっているが、実際に見学に行ったが、にぎわいが形成されていた。</p> <p>行政では難しいと思うが、この懇談会は民間人の集まりなので、行政ではできないが、まちの将来にとっては重要なことを話し合えるとよい。ただ、民間主導で取り組む場合には、そこに献身的に動く人材が必要でもある。</p>
事務局	<p>③青梅市の現状等について</p> <p>事務局より、資料12・13を用いて青梅市の現状、および将来人口推計(案)について説明</p>
委員	<p>50歳代で人口が増えるというのは自然などの要素に起因していると思うが、若者が出ていくのはやはり都心がよいということなのだと思う。この傾向に対する対応があるのかどうかを検討するべきだろう。</p>
会長	<p>この傾向はうなずけるということだろう。</p>
委員	<p>確実に人口が減ることがよく分かった。成木は先行して人口が減っている。青梅駅周辺でも、自分の子どもの同級生は、自分が子どものころの同級生よりも数が少ない。将来的には青梅駅周辺も成木のように人が少なくなるのだろう。</p> <p>空き家の問題があると思うが、空き家を資源と見ることもできる。ただ、資源としてあるのに持ち主が分からずに使えないのは問題だと思う。</p>
会長	<p>全国で13.1%だったと思うが、青梅市の空き家の数は把握しているのか。</p>
事務局	<p>空き家実態調査を行い、把握はしている。総合戦略を検討する際に参照したい。</p>
委員	<p>グラフの結果が保育園の実態を表していると思う。公園や買物をするところがないと、やはり市外に出ていくのだろう。アンケート結果に基づいて、対策を考える必要があると思う。</p>

委員	<p>就職の面で、高卒者の進路が気になる。女子生徒は西多摩エリアで魅力的な職域がないので都心を希望することが多い。一方、男子生徒はものづくりを希望するので西多摩エリアを希望する。このほかにも、アンケートを通じて西多摩に住む若者の就職に関するニーズが把握できるとよい。</p>
委員	<p>人口のバランスについて意見があったが、人口の回復を考えると、出生率を上げることが目標になるだろう。そうすると、女性に人気のないまちではいけない。いかに、女性を活かすかという視点で施策を検討できるとよいだろう。</p>
会長	<p>市政総合世論調査(平成23年度実施)の結果をみると、男性よりも女性の方が「住みにくい」「住み続けたいと思わない」と回答している。その理由について議論する必要がある。</p> <p>観光は御岳山だけで、ほかの観光資源は活かせていない。総合長期計画策定時にも議論したが、観光に関する戦略が必要だろう。</p> <p>たとえば博物館を考えても、ヨーロッパの博物館の館長はほとんど館内にはいない。外で営業をしている。金沢市で成功を収めている21世紀美術館も民間人を館長に登用していた。そのようなテコ入れが必要だろう。青梅大祭は、PR不足だ。</p> <p>人口推計については、介護施設が多数あることによって人口構成が特殊になっていると思うので、介護施設入居者を除いたときの数字を使って議論した方がよいだろう。</p> <p>また、65歳以上で働いている人は結構いると思う。最近の還暦は70歳だとも言われている。生産年齢人口は、15～64歳までをいうが、現状を踏まえると、70歳まで含めて考えてもよいのではないか。切り口を変えると人口の見え方が変わってくるだろう。</p>
委員	<p>観光関係で質問だが、訪日外国人の統計はあるか。</p>
事務局	<p>市内全域で集計したものはないが、数字をとっている地域もある。</p>
委員	<p>訪日外国人の呼び込みによって観光が活性化し、ひいては産業が活性化する方策もあるのではないか。</p>
委員	<p>観光客が1万人来れば、人口が1万人増えているとも考えられる。</p> <p>地区別に人口を見ると、人口減少はその地区の人の転出により減少するもので、減少しない部分というのは、介護施設があることで転入するという現実を踏まえないといけない。幸福の度合いは別問題。</p>

会長	<p>青梅に来るたびに立川より西が遠いと感じる。急行が止まる駅は地価が高くなる。青梅にも急行を通してもらうようにJRに働きかけたらどうか。</p>
委員	<p>中央線沿線の発展は、特別快速を走らせたことによるものと聞いている。本数増加よりも、急行が走ることによる効果が高い。</p>
会長	<p>青梅線でも急行が走り、10分変わると意識が変わるかもしれない。</p>
事務局	<p>(8)その他 ①次回の開催等について 次回懇談会は、8月24日(月)午後2時～午後4時開催 (閉会)</p>